

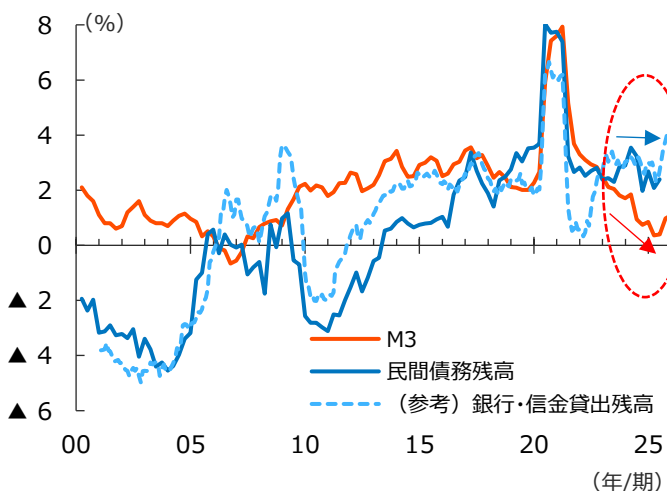
銀行部門の国債保有減少で強まる預金減少圧力

— 銀行では安定的な預金獲得と資産負債管理（ALM）が重要に —

- (1) わが国で「金利のある世界」への回帰が進むなか、銀行セクターでは、預貸ビジネスの収益性（預貸利ざや）が改善しており、安定的な預金確保が重要に。しかし、足元では貸出に比べて預金が伸び悩み（図表1）。（※）
- (2) 預金は、銀行等の預金取扱機関（預取機関）が企業等に貸出を行うことで発生する（信用創造）が、日本銀行（日銀）・預取機関が国債を保有して、政府が財政支出で企業・家計に資金を供給することでも預金は増加（図表2）。
- (3) わが国では、長期の景気低迷期に、国債を財源にした財政支出が拡大した一方、預取機関の国債購入や日銀の大規模な量的緩和によって日銀・預取機関の国債保有額が増加（図表3）。その結果、貸出よりも預金が増加し、預貸率は大幅に低下（図表4）。しかし、近年は、預取機関の国債保有は減少、日銀も量的緩和を縮小しており、預金の減少圧力に。
- (4) わが国金融・経済の正常化に伴う動きといえ、貸出に比べて預金が伸び悩む傾向は続く公算。一方、銀行セクターでは業態・地域を超えた預金獲得競争で預金移動が活発化する兆し。預貸率は依然低いものの、預金が流出した場合、有価証券等の売却を迫られる可能性もあり、銀行セクターでは安定的な預金の獲得に向けた取り組みや資産・負債の総合管理（ALM）が重要に。

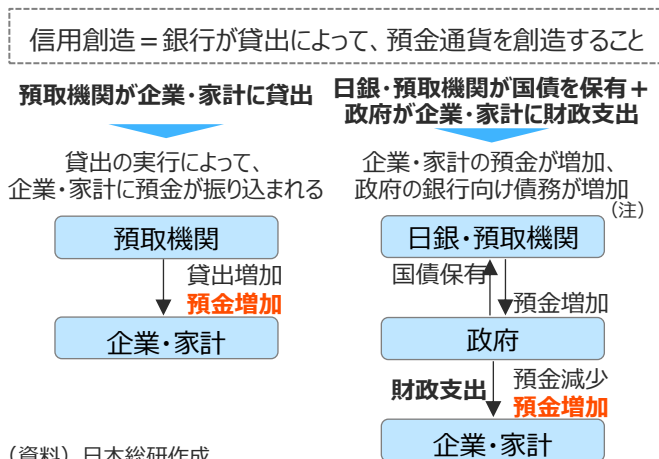
(※) 本稿では、預金・貸出は非金融企業・家計に対する民間の預金・貸出。また、銀行以外の預金・貸出を含めるため、預金はM3（すべての預金取扱機関、現預金+譲渡性預金）、貸出はBISの民間非金融部門債務残高（民間債務残高）を使用。

(図表1) マネースtock M3と民間債務残高の前年比



(資料) BIS、日本銀行を基に日本総研作成

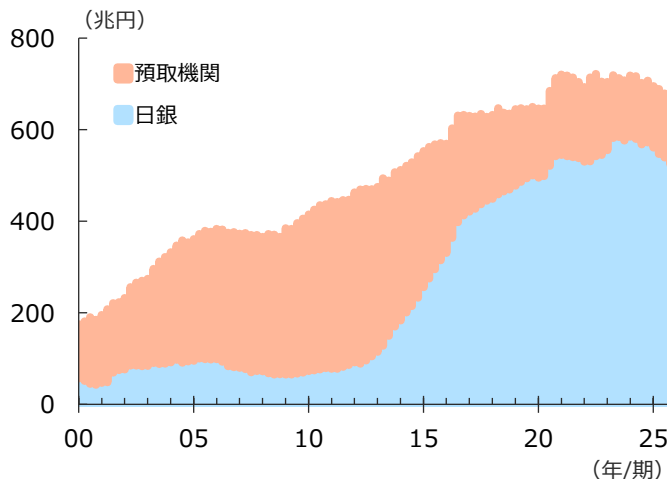
(図表2) 信用創造のイメージ



(資料) 日本総研作成

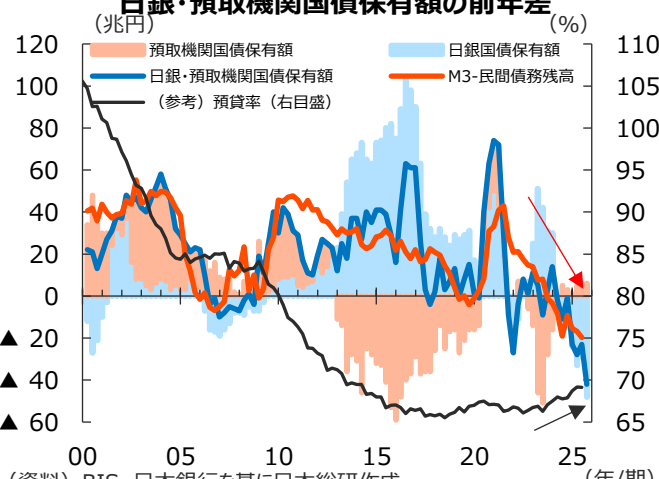
(注) 国債を企業・家計が保有した場合、企業・家計から政府に支払いが生じて企業・家計の預金は増えない。

(図表3) 日銀・預取機関の国債保有残高



(資料) 日本銀行「資金循環統計」を基に日本総研作成

(図表4) 預貸差 (M3-民間債務残高) と日銀・預取機関国債保有額の前年差



(資料) BIS、日本銀行を基に日本総研作成
(注) 預貸率は、民間債務残高÷M3で算出。

【ご照会先】調査部 主任研究員 大嶋 秀雄 (oshima.hideo.j2@jri.co.jp , 090-9109-8910)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。